

新規実施項目のお知らせ


謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
 このたび、下記の検査項目を新たに受託開始いたしますので、
 ご利用いただきたくご案内いたします。
 当社におきましては皆様のご要望に幅広くお応えすべく研鑽を
 重ねてまいりますので、今後とも引き続きお引き立てのほ
 どよろしくお願い申し上げます。

敬白

記

■実施日 2017年1月6日(金) ご依頼分より

■新規項目内容一覧

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値	備考
7988	HTLV-1 核酸検出 (妊婦)	血液 (EDTA- 2Na加) 7.0	A	冷蔵 (3日)	10~ 16	450 ^{注)} ※6	PCR(リアル タイムPCR)	陰性 (プロウイ ルスを確認 めません でした)	 血液：凍結保存は避けてください。 他項目との重複依頼は避けてください。 化学療法などにより細胞数が減少している場合は、必要量のDNAが抽出できない場合もあります。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
7964	HTLV-1 プロウイルス	血液 (EDTA- 2Na加) 7.0	A	冷蔵 (3日)					
7965	DNA 定性	組織 50 mg	r	凍結					

注) HTLV-I (ATLV)抗体(ウェスタンブロット法)によって判定保留となった妊婦を対象として測定した場合にのみ算定できる
 ※6：微生物学的検査判断料

2016年9月16日より下記項目の受託開始をいたしました。今回の受託開始に伴い、2017年1月31日ご依頼分をもって受託を中止させていただきます。

項目コード	項目名	受託中止日
7987 (血液) 7963 (組織)	HTLV-1核酸検出	2017年1月31日(火) ご依頼分をもって受託中止

● HTLV-1核酸検出（妊婦）
 ● HTLV-1プロウイルスDNA 定性

判定保留例におけるHTLV-1感染の診断に有用です。保険適用専用項目をご用意しました。

日本には約108万人のHTLV-1（ヒトT細胞白血病ウイルス1型）キャリアが存在し、約5%にATL（成人T細胞白血病）等が発症すると言われています。HTLV-1の主な感染経路は、母乳を介した垂直感染であり、その他にも、日本赤十字社での献血検体陽転化例についての疫学調査により年間3000～4000人の水平感染の発生が示唆されています。ATLやHAM（HTLV-1関連脊髄症）は難治疾患であり、HTLV-1キャリアの同定と感染予防が重要な課題となっています。

HTLV-1感染の診断において、スクリーニング検査の陽性者に対して行う確認試験（ウエスタンブロット法）での「判定保留」の比率が10～20%と比較的高いことが問題となっています。

本検査は、ウエスタンブロット法での「判定保留」例におけるHTLV-1感染の診断に有用性が認められた感度を満たしたPCR（リアルタイムPCR）法を用いた定性検査です。

妊婦健康診査の1つとして抗体検査が実施されている産婦人科領域においては、診断が明確になることで、母乳を介した母子感染の予防が可能となることから、平成28年4月より、ウエスタンブロット法で判定保留となった妊婦を対象として実施した場合に限り、保険算定が可能となりました。

この度、保険適用専用項目をご用意し、再度の受託開始をご案内申し上げます。


▼ 疾患との関連

成人T細胞白血病・リンパ腫（ATL・ATLL）
 HTLV-1関連脊髄症（HAM）

▼ 関連する主な検査項目

HTLV- I（ATLV）抗体

▼ 検査要項

検査項目名	7988	7964	7965
項目コードNo.	HTLV-1核酸検出（妊婦）	HTLV-1プロウイルスDNA 定性	
検体量	血液(EDTA-2Na加) 7.0 mL	血液(EDTA-2Na加) 7.0 mL	組織 50 mg
容器	A	A	r
保存方法	冷蔵	冷蔵	凍結
所要日数	10～16日		
検査方法	PCR（リアルタイムPCR）		
基準値	陰性（プロウイルスを認めませんでした）		
検査実施料	450点 （「D023」微生物核酸同定・定量検査の「10」） HTLV-1核酸検出はHTLV- I（ATLV）抗体 （ウエスタンブロット法）によって判定保留と なった妊婦を対象として測定した場合にのみ 算定できる。		
判断料	※6 微生物学的検査判断料		
備考	 血液：凍結保存は避けてください。他項目との重複依頼は避けてください。 化学療法などにより細胞数が減少している場合は、必要量のDNAが抽出できない場合もあります。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては 取り扱いに充分ご注意ください。		

●参考文献

Miyazato P, et al: *Journal of Virology* 80 (21) : 10683～10691, 2006.

（検査方法参考文献）